

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(東山泉小中学校)

前 期

<ul style="list-style-type: none"> 個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定 			
分 野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	基礎的汎用的能力の伸長を目指した授業改善	キャリア教育の視点から学びの主体性を重視した授業づくりの研究推進と実践	学校教育目標、めざす子ども像から見える授業や取組の達成度
	論理的思考力の育成を目指した言語活動の推進	アクティブラーニング型授業を通し、論理的思考力を高める授業を行う 10月の研究報告会以外の定期的な公開授業	自分の意見や思いを正しく伝えるために筋道を整え考えをまとめる力の必要性
	家庭学習の習慣化と、学ぶ意欲の向上	校内の自学環境の整備と、家庭学習に繋がる自学ノートの指導、支援の充実。自学室・自学スペースの活用	家庭学習の状況とその内容 (宿題・自学ノート・読書)
豊かな心	道徳主任を中心とした道徳授業の充実と、実践的態度の育成と道徳教育推進教師を中心に、子どもたちが楽しく学べる学校づくりの推進	年間35時間の道徳授業の充実と、実践的態度の育成と道徳教育推進教師を中心に、子どもたちが楽しく学べる学校づくりの推進	教育課程管理としてのシラバスに基づく各学年の実施状況の点検を年次実施と、お世話活動や縦割り集団活動を通じた取組の推進
	9学年を繋ぐピアサポートの充実と「公共の精神」に基づく態度の育成	縦割り活動の有効性を引き出す学校・学年行事の精選とお世話活動の実施	児童・生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践
健やかな体	自己理解・自己管理能力による基本的生活習慣の確立と自他を大切にする態度の育成	環境教育、食教育の充実と、学年別に応じた実践力の育成と基本的生活習慣の確立	朝食の摂食、起床就寝、自己管理等、基本的生活習慣の点検
	生涯にわたって運動に親しむ資質と能力の育成	小学校課程でのクラブ活動、4年生からの部活動の充実と適正な運動量の設定	クラブ活動、部活動実施状況の点検と、児童生徒の活動状況
独 自 の 項 目	5・4制施設併用型小中一貫教育の推進と「ゆめづくり・夢創」(総合的な学習の時間)の推進	小学校と中学校、学び、両学舎等、様々な繋ぎの実践3年生から7年間を系統立て、地域学習と関連したカリキュラムの編成と実践	東西学舎の交流の重要度と実現度 東西学舎における7年間の系統性と学習計画の重要度と実現度

自己評価			
評価日	平成28年9月23日		
評価者・組織	1st/2nd合同運営委員会		
アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	分析を踏まえた改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 重要度は95%と期待度は高く、達成度は70%を超えた。概ね本校の学びのスタンダードによる授業を評価されている。 全国調査結果から6年生、9年生共に算数、数学B問題の筋道をたてた証明、事象と関連した説明問題で府、全国を上回る結果が見えた。 重要度は90%、達成度は西学舎70%強、東学舎60%強と違いが見られる。 学年道徳や外部人材を活用した授業の工夫により、参観される保護者が増えた。 重要度は約85%、達成度は約75%。 薬物乱用防止や命を考える取組に、美化保健委員会活動等、児童生徒の主体的な実践が見られるようになった。 ノーブル活動の設定等、児童生徒の体力と学校行事と関連した行事予定作成した。 重要度は80%弱、達成度は西学舎60%強、東学舎70%弱。 	<ul style="list-style-type: none"> 能力観につながる新たな学力観が徐々に意識されてきた感がある。 グループ学びやひとり学び等を組み込んだ授業実践により、思考を経ての表現ができつつある。 自学ノート等、子どもの主体性による活動は評価されている。 西学舎の方が宿題の量が一定に出しやすい。 道徳教育推進教師とは別に道徳主任が、時数確保と指導内容の企画等、役割を果すことができた。 体育大会や文化祭、学習発表会等の学校行事で縦割り集団活動の様子が見やすくなっている。 泉いきいきセミナー等、新たな企画が立ち上がり、児童生徒が参加する行事が増えた。 小学校部活動ガイドライン、中学校運動部活動留意事項に沿った部活動運営に努めることができた。 学年進行による系統性を持たせた学習内容が浸透してきた。 西学舎1、2年生の生活科との関連の周知が不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に公開する授業参観等での資料に、授業のねらいと育みたい能力との相関を具体的に示す。 更なる伸長をめざし、自己の表現に対して、新たな(発展的な)「問い合わせ」を考える指導等を研究する。 自学ノートを始め宿題の評価を保護者にも定期的に伝える工夫をする。 道徳の教科化に向けた評価の研究、指導内容の精選等をシラバスに反映させる。 2学年交流や、より多くの学年による交流等、行事ごとの有効性を検証すること。 地域との関連性を高めること。 新規行事の効果を検証し、内容の充実を図る。 泉いきいきセミナーの項目に食教育に繋がる内容を入れる。 運動部活動ごとの種目の特性、吹奏楽の地域行事への参加度等、それに対応した計画を立てる。 学年進行による系統性を持たせた学習内容が浸透してきた。 西学舎1、2年生の生活科との関連の周知が不足。 	

学校関係者評価	
評価日	平成28年10月3日
評価者(いざれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
次期学習指導要領の改訂を意識した取組であるべき。	・研究報告会の側面的な支援。 ・学び支援部会の活動強化
次期学習指導要領の改訂を意識した取組であるべき。 ・何よりも学力をつけ進路実現をお願いしたい。	・研究報告会の側面的な支援。
アンケートの時期から低学年の保護者には、取組が十分に実感できていない。	・放課後学び教室の充実(西学舎) ・PTAによる啓発
道徳は子どもたちの心を耕す授業や取組である。仲間意識や挨拶することの気持ちの良さ等を今の子どもたちに伝えてほしい。	・登校時の見守り活動、少年補導委員会の諸行事等、学校の道徳とも連動する意識で臨む。
児童生徒会による挨拶運動や児童生徒総会等、東西学舎合同行事は評価できる。	・登校時の見守り活動等を活用した支援。
子どもたちが主体的に取り組む姿は評価できる。 ・表彰や新聞等にも紹介され励みとなっている。	・学校運営協議会としても関連諸行事に参加する。 ・薬物乱用防止の取組には保護司会も参画しており、今後も継続して支援する。
大文字駅伝、綱引き全国大会での活躍で地域が盛り上がった。 ・寄贈された土俵の有効活用に努められたい。	・小中の部活動は学校が主体であるが、綱引きや地域での健体力づくりの取組と併せて人的支援を行う。
「ボスター発表」や「芸術の泉」等の行事は評価できる。 ・HP等での動画配信等、もっと取組をPRできないか。	・東山区役所等、行政の支援も働きかける。 ・5・4制の良さをいろいろなところでアピールする。